

### 3月11日（水）震災集会「校長講話」にかえて

長沼中学校に赴任して3年がたちました。そして、この震災集会も、私が校長として参加するのは3回目になります。とは言っても、残念ながら今回の臨時休業で、3回目の集会は実際には開催できませんが、目の前に長中生全員がいるつもりで、お話ししたいと思います。

長沼中に赴任して最初の年、平成29年6月に開催された「奇跡のあじさい植樹祭」では、長沼中学校の当時の全校生が藤沼湖畔のステージで、全国から集まった奇跡のあじさいの里親の方々へ、もちろん「あの日」に大切な命を失ったの方々のご家族や関係者の皆さんへ、そして、すべての長沼地域の方々へ向けて、復興を進める前向きなエネルギーになるようにと、元気な歌声を披露しました。涙を浮かべて歌声に耳を傾ける人、歌い終わってから中学生たちと握手したり、中学生に話しかけたりする人たちがたくさんいました。その時、私は「長沼中生は、長沼地域の復興のシンボルであり、復興の活力源である」と強く感じたのでした。

そのコンサートの時に歌った歌が、嵐（あらし）の歌う『ふるさと』という曲でした。

♪巡りあいたい人がそこにいる  
やさしさ広げて待っている  
山も風も海の色も いちばん素直になれる場所  
忘れられない歌がそこにある  
手と手をつないで口ずさむ  
山も風も海の色も ここはふるさと・・・



東日本大震災後、心に響くこの歌詞とメロディーに癒やされた人も多かったのではないのでしょうか。私は奇跡のあじさいコンサートの時、

♪山も、風も、春の桜や秋の稲穂の色も  
いちばん素直になれる場所  
忘れられない友や先生  
お世話になった方々がいる  
ここは長沼・・・



という歌（意味）に聞こえたのでした。

辛い記憶や悲惨な事故、今回の新型コロナウイルスによる感染症の影響など、人生は決して平穏なまま過ぎてはいきません。しかし、自分の人生を振り返ったときに、様々な苦勞を乗り越えてきた自分の原点として、何気ない景色の中でのおだやかな心を思いださせてくれるところが「ふるさと」であり、皆さんにとっては、それが長沼であってほしいと思うのです。

東日本大震災を経験した皆さんが、心のふるさと「長沼」をこれからも大切に生きていってほしいという強い願いをお伝えして、私の話を終わります。